6年間の中高一貫教育で未来のリーダーに

三鷹中等教育学校

世界へ羽ばたけ

中高一貫校について知っているだろうか。6年間の中高一貫教育をひとつの学校で行っており、都立では10校ある。中でも三鷹中等教育学校（三鷹市）は「思いやり・人間愛（ヒューマニティー）を持った社会的リーダーの育成」を基本理念に掲げ、国際社会に対応した魅力あふれる人材を輩出している。

人工芝で練習強豪サッカー部

運動部ではサッカー部が強豪として知られる。20年に都の中学新人大会第3位。公立中では唯一の都ベスト4入りを果たした。また21年夏季選手権で都大会進出と勢いがある。

阿部雅人顧問のもとで活動する部員たちは人工芝のグラウンドを併用して精力的に練習。FW辻優朔さん（3年）は「サッカーのレベルも、勉強の質も高いです」と充実した様子。MF名倉由翔さん（3年）は「学校見学に来た時に中学生、高校生が輝いていたのでここしかないと思いました」と振り返った。

DF杉谷健太さん（3年）は「先輩との関わりを実感しています」と、高校生と一緒に練習できる一貫校ならではの利点について言及した。

サッカー部で活動する左から阿部雅人先生、杉谷健太さん、辻優朔さん、名倉由翔さん

東京五輪の開会式で国旗先導

○…バスケットボール部の茂木佑二さん（3年、写真右）は昨年の東京五輪開会式で国旗先導の大役を果たした。「バスケットボールが好きだし勉強も大切。この学校はスポーツにも力を入れているので、その両方ができるなら」と入学した。競技では「（NBAウォリアーズの）ステフィン・カリーが好きです」と憧れの選手を挙げた。バドミントン部の髙野紗衣さん（3年、同左）は「部活と給食のおいしさで入学を決めました。仲間の大切さを学びました」と充実の日々を過ごしている。

激レア鉄道研究部で作品受賞

○…関根啓太さん（3年、写真右）は鉄道研究部に所属。伊藤智樹顧問＝同左＝のもと、中学1年6人、2年3人、3年2人、高校生の4年2人、6年4人の17人で活動している。昨年は鉄道模型ジオラマ「国境の冬～新清水トンネルを抜けて～」で「JR貨物賞」と「ベストクリエイティブ賞」に輝いた。関根さんは「公立の中高一貫校で鉄道に関する部活があるのは三鷹でした。とにかく明るい学校です」と話し、楽しい時間を過ごしている。

自主性と行動力で磨く英語ディベート

全国大会で準優勝

小学生の皆さんは、進路について考えることがあるよね。いろいろな選択肢がある中で、今、注目の中高一貫教育校を紹介するよ。

今回訪れた三鷹中等教育学校は都立三鷹高校が前身。現在は6年間の公立中高一貫教育校で、中学校3年間相当を「前期課程」、高校3年間相当を「後期課程」としており「後期課程」からの入学募集は行っていない。つまり、入学するためには小学生のうちに進路を定め、受験する必要がある。

そんな三鷹中等教育学校は指折りの進学校であり、文武両道で知られている。国際社会進出を見据え、グローバル教育にも力を入れていることが特徴だ。

今、校内では課外活動の「英語ディベート」が盛ん。昨年の3年生（現4年生）から英語での討論練習を開始し、昨年度の「第4回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会」でいきなり準優勝。能力の高さを実証し、今年度の中学生は3年生8人が活動している。

帰国子女が1人、ほか7人は英語学習3年目で、いずれも目覚ましい進歩を遂げている。阿由葉洸太さんは「短時間で意見をまとめないといけないので大変な作業。でも、文法ができなくても英語は話せるということを知りました」と充実した表情。小松原那月さんは「一つの意見に対して肯定的、そして否定的な意見を考える力がつきます」と話し、深野安那さんは「相手が言ったことに対してほとんど考える時間がないまま切り返していかなければならないが、練習を繰り返していくうちにある程度は反論もできるようになりました」とディベートの魅力を語った。

大波真琴さん「オーディエンス（聞く人）がいるので、たとえ英語が詰まってしまっても、話す態度や口調で伝えるようにしています」と工夫を怠らず、河上和希さんは「英語が大好きで興味や関心が全て英語です」というほど熱中している。

活動を通して学んだことについて、金子詠璃奈さんは「継続することの大切さです」と答え、鈴木美南さんは「英語でも日本語でも、もっと自分の意見を言おうと思えるようになりました」と明かした。

活動通し深める絆

そして塩谷依加さんが「チームワークがいいことが大きいです。それがディベートの良さだと思います」と言うように、活動を通して生徒同士の絆も深まっている。

それぞれが学業や部活動をこなしながら、英語ディベートチームとしても切磋琢磨する。そんな自主性と行動力が、三鷹中等教育学校生の姿を象徴するものになっている。

英語ディベートチームの左上から阿由葉洸太さん、金子詠璃奈さん、鈴木美南さん、小松原那月さん。左下から深野安那さん、塩谷依加さん、河上和希さん、大波真琴さん

高い志の先生たちと感性を高める体験型の学習

2017年着任の藤野泰郎統括校長＝写真＝は「体験型の学習が生徒たちの感性を高めることにつながります」と力を込める。

習熟度別、少人数でなど分かりやすい授業や全学年で取り組む合唱祭、体育祭、文化祭は一体感がある。学校の厨房でつくるおいしい給食、活発な部活動、生徒会、委員会活動などに加え、充実した図書館、4つの理科実験室、広いグラウンドなどの施設、設備のもと、決められた時間の中で精いっぱい楽しんでいることも特徴だ。

「新しい中高一貫教育への志を持った教員がたくさんいます。一枚岩になって人間愛に満ちたリーダーを育てていきたいです」と前を向いた。

詳しくは学校公式HPへ
QRコードでアクセス